



## 心のビタミン No.183



# プライマリ・ケアの時代

徳島県の南部は気候も人々の心も温かい。このたび海陽町穴喰診療所の白川光雄先生が、へき地医療貢献者表彰を受賞。これは長年山村離島の医療に尽力した医師に対し、全国自治体病院協議会が功績を称えるものだ。

先生の活動は訪問診療へき地巡回診療、医学教育など幅広い。日本プライマリ・ケア(PC)連合学会四国支部学術大会長も担当(2014.1)、テーマは「心理面、社会面を含めた全人的な医療を四国から発信！」だった。

さて、日本の医療は国際的にはどうか？ 大学や医師会、献身的な医療スタッフなどのお陰で、日本のレベルは世界トップクラスだ。誰もが医療機関に受診できるのは普通ではなく、世界を見渡すと希有なこと。歴史を振り返ると、かかりつけ医の貢献度が高い。

総合診療、家庭医療などを包括するPCの医学が目され発展してきた。先日は厚生労働省が地域包括診療を評価し新システムも開始(2015.1)。中には慢性疾患指導の研修や日本PC連合学会への参加なども含まれる。

PC医は、単に病気や臓器だけを診察するのではない。患者の背景にある心の問題、家族や仕事との関わり、環境の影響なども多面的に複眼で診ていく。大切な患者さんの全体像を総合的に包括的に考慮する。つまり、オールマイティの医師といえよう。

そういえば、最近TVでもドクターGと紹介されること。これがこれからの日本に求められる医師像と期待されているようだ。



(医師・音楽家 板東浩)